



富山県

No.70 2014年1月

中央植物園だより



第16回私の植物写真展応募作品「シナノキ科ゴジカモドキ」撮影 / 平野 稔さん

ゴジカモドキ (シナノキ科)

南アフリカ原産の常緑の垂高木で、日本には昭和初期に宝塚 (兵庫県) に導入された記録があります。



クリスマスローズ展開催のお知らせ

2014年2月21日(金)～23日(日)にサンライトホールにおいて、この時期ちょうど見頃となるクリスマスローズを県内生産者の協力により展示します。



BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

特別展「梨を味わう」レポート

平成25年度の特別展「梨を味わう」を8月30日から10月2日までサンライトホールで開催しました。植物としてみたナシだけでなく、ナシ全般についてクイズ形式で紹介し（写真下）、ナシの品種（野生種を含む）約40品種の紹介（写真右上）、ナシを使った製品やナシに関係する文学作品などを展示しました。また、今回初の試みとして、県農林水産総合技術センター果樹研究センターならびに新興果樹園の協力を得て、期間中の土曜・日曜に収穫時期を迎えたナシの品種の食べ比べを実施し、多数の方が参加されました（写真右下）。また、一般に入手困難な種類を含めたナシの販売も行いました。



ナシについてのクイズ。全部で25問、いくつできたかな？



国内のほぼすべてのナシの品種を紹介。



ナシの品種の食べ比べ。毎回旬の数品種が提供され、味や硬さなどの違いを多くの方が体験されました。

第21回 TOYAMA 植物フォーラム「ナシのひみつ」レポート

特別展「梨を味わう」の期間中の9月22日に第21回 TOYAMA 植物フォーラム「梨のおはなし」をサンライトホールの特設ステージで行いました。独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所 池谷祐幸氏、県農林水産総合技術センター果樹研究センター 関口英樹氏、新興果樹園 柳田恵幸氏の3名のパネリストの方から、日本の野生ナシと栽培ナシの起源や富山県におけるナシ栽培の品種のほか、黒部市宇奈月町で様々な品種のナシの栽培などについて、ご講演いただきました。当日は県内のナシ栽培の関係者をはじめ多数の方が来場し、盛大なうちに終了しました。



講演後の質疑応答中のパネリスト。左から池谷氏、関口氏、柳田氏。

おかげさまで 入園者 150万人達成！



平成5年開園から20周年の今年、入園者数が11月24日に150万人に達しました。150万人目の来園者に園長から記念品が贈られました（写真右）。



植物園トピックス

中国雲南省の研究者来園

中国雲南省昆明植物研究所の龍春林教授をはじめ6名の研究者が平成25年9月27日～29日に来園しました。一行は岡山大学で開催された日本学術振興会アジア教育概念事業の報告会（中央植物園からは中田園長・兼本主任研究員が参加）に来日したもので、この中には中央植物園ではおなじみの王仲朗副研究員も同行されました。

富山県に来るのがはじめての方が多く、最初は県内の観光地を案内することも計画していましたが、初日に富山県中央植物園内をご案内したところ、気に入られたようで、1日では回り切れませんでした。最終日の午前中も出発ぎりぎりまで見学し、離県されました。



皆が交代で記念撮影をするので、次の場所まで移動に時間がかかります。

研究紹介◎『コバイケイソウは20年に一度大開花する?』

企画情報課主任 吉田めぐみ

今年からササの分類が専門の高橋主任と一緒に、立山のササの調査を始め、7月からほぼ毎週立山へ行っていました。その折に見かけたコバイケイソウが今年は山一面、とくに天狗山や大谷の斜面では遠くからみると山一面が白く見えるほど「大開花」していました。またいつもはコバイケイソウがあるとは気づかない場所にも数多く咲いていました。この現象は立山だけではなく、インターネットで検索すると白山、千畳敷カール、吾妻連峰など各地で起こっているようです。

コバイケイソウの仲間は毎年咲かず、開花周期は2～3年、7年おきなどといわれています。生育期間が短い寒冷地に生育するため、1年（実質光合成可能期間は2～3ヶ月）だけでは開花・結実に必要な栄養分を地下茎に蓄えられないためとされています。ある山小屋のご主人が「これだけ咲くのは20年ぶりだ」と言っていたそうで、記憶をたどると1993年は確かに多くのコバイケイソウが咲いていたことを思い出しました。

そこで、立山で開花がどうなっていたかを過去20年間の7月下旬から8月上旬にかけての調査データ、野帳、写真から表にまとめてみました。データがない年もあり断定できませんが、①2年続けて開花する場合がある、②開花が多かった翌年は開花しないあるいは少なめに開花する、③2007年～2013年の状況を見る限り、7年周期の可能性があるので、といったことは言えそうです。

長井（2010）は1980～2009年に立山ルート沿線で18種の植物について結実周期を調査しており、コバイケイソウの周期ははっきりせず3～5年程度、また凶作年は比較的広く同調するが、豊作年には地域差があり、地域的な周

期が重なり合って広域的な豊作年が起こるのではないかとしています。そうすると、今年は立山、白山など各地の豊作年が重なり合い、開花が同調しているように見えていたと考えられます。ただし「20年に一度大開花」するかどうかは、20年後にならないとわからないかもしれません。

長井眞隆・2010. 立山ルート沿線の結実変動の周期及び同調性等について—1980年（昭和55年）～2009年（平成21年）の30年の調査記録—中部山岳国立公園立山ルート緑化研究委員会年報 11：1-22.



1993年8月4日五色ヶ原にて撮影



2013年8月3日室堂にて撮影

表 立山における過去20年間のコバイケイソウの開花状況

年	開花の有無	年	開花の有無	年	開花の有無
1993	大開花	2000	開花(多め)	2007	開花
1994	開花	2001	なし	2008	開花(少なめ)
1995	なし	2002	—	2009	なし
1996	—	2003	開花	2010	開花(多め)
1997	開花	2004	—	2011	なし
1998	—	2005	—	2012	なし
1999	開花(少なめ)	2006	—	2013	大開花

‘—’はデータ、写真がないことを示す。

写真で見る植物園の20年 その3

開園20周年を記念して、このコーナーでは20年間の中央植物園の移り変わりを写真で紹介します。



1994年(平成6年)8月、ミズナラ・ブナの森の南休憩所前の小さな橋から上流方向に向かって撮影。まだ後方の橋や樹木が見えていました。



1997年(平成9年)、熱帯雨林植物室のタビビトノキ。右側のパーゴラや通風孔の高さに葉の付け根がみえます。株全体が写真に収まっています。



2013年7月に同じ場所で撮影。左中ほどに橋の一部が見えていますが、樹木だけでなく草本類も全体的に繁茂しました。



2013年11月に同じ株を撮影。上の写真撮影から16年経過し、葉がかなり上の方に着いているので、下から見上げるアングルで撮影してようやく収まりました。

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール
企画展には入園料が必要です。

干支にちなんだ植物
12月13日(金)～1月22日(水)

開園20周年記念展
「新春カトレア展」
1月4日(土)～5日(日)
4日は臨時開園します。

平成25年度研究発表展
1月24日(金)～2月26日(水)

クリスマスローズ展
2月21日(金)～2月23日(日)

第42回 蘭まつり富山県大会
2月28日(金)～3月2日(日)

第10回雪割草富山県大会
3月7日(金)～3月9日(日)

北陸の菊桜(仮題)
3月14日(金)～

■講座・講習会
★平成25年度研究発表会
1月26日(日) 13:00～16:00
会場:サンライトホール(入園料が必要)

★栽培講習会③
「ランの栽培と管理」
3月1日(土)・2日(日)
時間は両日とも
午前10:30～12:00、午後13:30～15:00
会場:管理研修棟研修室

★栽培講習会④
「雪割草の栽培と管理」
3月8日(土)・9日(日)
時間は両日とも 13:30～15:00
会場:ドリアスホール(入園料が必要)

■月例行事

植物ガイド

—ボランティアと歩く植物園—

毎週日曜日 13:30～14:00
集合場所/サンライトホール
参加費/入園料が必要

★印は植物園ボランティアの養成講座です

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日
(4月中とGW、お盆、祝日の場合は開園)
年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 500円
団体料金(20名以上) 400円
高校生以下通年無料
冬期入園料(12月～2月)
大人(一般および大学生) 300円
団体料金(20名以上) 240円
高校生以下通年無料
年間パスポート(購入日より1年間有効) 2,000円

交通案内 JR富山駅から、富山地铁バス「ファボーレ」経由菟の島循環または「ファボーレ」経由速星行き(休日のみ)に乗り「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分